

魚の目から



工藤秀雄

株式会社 港湾機材研究所 会長

世界の海を泳ぎ廻っている魚の目から見たことをお伝えしたいと思う。どうやら、陸の人間社会では大変なことになっているようだ。世界ではイラク問題、国連問題、さらには景気等で騒然としているし、日本では二大政党時代とかいわれているが景気は芳しくなく、年金、道路、郵政、三位一体改革等の諸問題が目前に迫っている。

われわれ魚にとってもこれらの状況の推移によって、海洋汚染を始め、いろいろな問題が生じないように祈るばかりである。

魚もこれまで、人間からさんざんつかまえられるし、鯨には追いかけて回され、逃げ回っているところに人間が陸上からいろいろなものを流すものだから、海も汚れ、生きるのが大変である。もっとも、最近は人間も反省して、海洋汚染防止とかでゴミ、油等の汚れを防止しようと努力しているようで、大分、生きやすいようになってきたところであるが、なお、一層の努力をお願いしたいと思う。

ところで、陸上の景気が悪いと聞いているが、われわれの海の上で、何やら大きな鉄の魚がさかんに動き回っているようである。何でも、コンテナ船というもので、いろいろな国での景気の動きに関係があるようで数が増えたら大変だが、まあ、海の中までは入ってこないから目をつぶることにしようかとも思っている。日本でもコンテナ港湾の国際競争力がなくなったとあって、いろいろ対策をたてているようで、低コストで、スピーディな効率的な港湾とするように努力されていることは大変いいことだと思う。その場合、必要なコンテナ港湾を整備することに加え、その運営にあたり、他の組織、機能とのスムーズで一体的な連携が大切であると思うが、実際

そのように進められていると聞いており、大変有難く思っている。今後、鉄の魚がますます増えて、われわれの世界にも大変な影響を及ぼすのではと思ったが、この効率化でそれほどの数でないようである。安心してほしい。

他の鉄の魚が出入りしている港も、大変数多く、便利なように大小様々なものがあちこちの海にあるが、それも、いろいろな技術開発によって、安く、使い易く、安全な港が作られている。特に、われわれ魚が住みやすいようにも作ってくれているということで、すみ場所を変えない魚にとってはまことにありがたいことであるし、流れも変わるので楽しいこともある。ゴミ、油やヘドロ等のご免こうむりたいし、今後とも、人間だけでなく魚もサンゴも楽しく暮らせるようにしてほしいものである。

港や空港の整備に当たっては最新の技術で建設を進めているようであるが、特に作業用の鉄の魚を効率よく利用して、水深測量、浚渫土の利用とか、即時施工計測等をおこなっているようで、コスト削減のみならず、施設の安全性や利用上の利便も大変よくなっていることには感心しているところである。ただ、一部の調査や施工について魚から見ると手探りでの作業ではないかと思っている。ここで魚からの提案であるが、われわれの目は水中でもよく見えるので人間が陸上で見るのと同じように全体像が即時にわかるようになると思うので、われわれ魚の目なり、能力をよく研究してもらい、それに超短波の助けを借りれば、港湾の整備についてのよい方法が見つかるのではないかと思う。もっとも、われわれ魚の環境はもちろん大切にしてくれることが前提であることをお忘れでなく。